

(部分)

法隆寺1400年の祈りと美——寺宝、最大規模で一堂に。

奈良・斑鳩の地に悠久の歴史を刻む法隆寺は、推古天皇15年（607）、聖徳太子によって創建されたと伝えられます。太子は仏教の真理を深く追究し、また冠位十二階や憲法十七条などの制度を整えることで、後世に続くこの国の文化的な基盤を築き上げました。聖徳太子を敬う人々の心は、その没後に信仰として発展し、今日もなお日本人の間に連綿と受け継がれています。

令和3年（2021）は聖徳太子の1400年遠忌にあたり、これを記念して特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催します。本展覧会では法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて太子その人と太子信仰の世界に迫ります。さらに、明治11年（1878）に法隆寺から皇室へと献納された「法隆寺献納宝物」が、奈良へまとまって里帰りする貴重な機会ともなります。

本展覧会は1400年という遙かなる時をこえて、今を生きる私たちが聖徳太子に心を寄せることでその理想に思いを馳せ、歩むべき未来について考える絶好の機会となることでしょう。

太子を描いた最古の肖像画



聖徳太子二王子像（模本）

展示期間 5/18～6/20

和田水模写 明治30年(1897)

奈良国立博物館蔵

原本の《御物》聖徳太子二王子像(唐本御影、宮内庁蔵)は4/27～5/16の展示となります。

太子の事績を収録

【国宝】日本書紀 卷第二十二 後期

平安時代・10世紀 京都国立博物館蔵

推古天皇12年(604)4月、聖徳太子によって憲法十七条が作られた。これはその記事を載せる『日本書紀』卷第二十二の現存最古の写本。

太子への崇敬と信仰

平安時代になると、聖徳太子を救世観音の生まれ変わりとする信仰が生まれ、太子も中心的な信仰の対象となりました。その代表作が聖徳太子の500年遠忌に制作された法隆寺聖霊院の本尊、聖徳太子および侍者像です。以降、二歳像や十六歳像など太子は多彩な姿で表され、太子信仰の流れは現在も日本仏教のうちに脈々と息づいています。

聖霊会の主役！

重要文化財

聖徳太子坐像

（伝七歳像）

平安時代・治暦5年(1069)

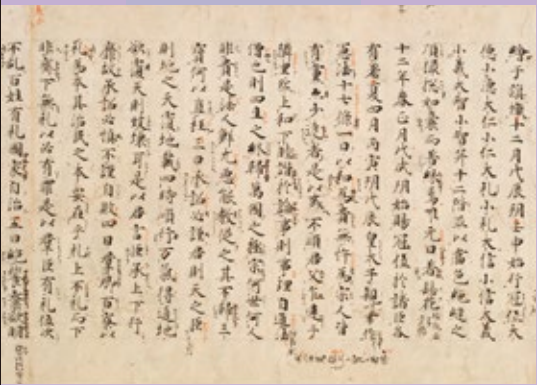
奈良・法隆寺蔵

東院絵殿に安置されていた聖霊会の本尊。太子を穏やかな風貌の少年の姿で表す。像内銘により、仏師円快が制作し、秦致貞が彩色したことがわかる。



日本文化の礎を築いた聖徳太子

聖徳太子（574～622）は推古天皇の時代に蘇我馬子らとともに政治を補佐し、仏教を中心とした国造りを行いました。冠位十二階や憲法十七条の制定、遣隋使の派遣によって政治制度を整えるとともに、法華経・勝鬘経・維摩経の教えを深く研究することで、わが国の文化を大きく飛躍させました。憲法十七条の第一条に記された「和を以て貴しとなす」の一文は、調和を重んじた聖徳太子の信条をよく表しています。



（部分）



（部分）

奈良会場のみの特別展示 全10面一挙公開

【国宝】聖徳太子絵伝 前期

秦致貞筆 平安時代・延久元年(1069) 東京国立博物館蔵(法隆寺献納宝物)

法隆寺東院絵殿の内壁を飾っていた10面からなる現存最古の聖徳太子の伝記絵。明治時代に皇室に献上され、現在、東京国立博物館の所蔵となっている。

古代 仏教工芸の 代表作

【国宝】

玉虫厨子

飛鳥時代・7世紀

奈良・法隆寺蔵

宮殿形の厨子で、要所に施された玉虫の装飾が名の由来。台座には釈迦の前世譚や須弥山などの図が描かれる。飛鳥時代の仏教文化の水準を示す名品。



悪夢を 吉夢に 観音像 変える

【国宝】

観音菩薩立像

（夢違観音）

飛鳥時代・7世紀

奈良・法隆寺蔵

この像に祈れば悪夢が吉夢に変わるとの伝承から「夢違観音」の名がある。明るくほがらかな表情、軽やかな天衣や繊細な指先に至るまで、随所に洗練された造形感覚が発揮される。



（部分）

肖像彫刻の傑作！



【国宝】

行信僧都坐像

奈良時代・8世紀 奈良・法隆寺蔵
行信(生没年不詳)は、荒廃していた斑鳩宮の地に、東院伽藍を建立したと伝える。威厳ある風貌を写實的に表した、奈良時代肖像彫刻の傑作の一つ。

奇跡の寺・法隆寺

推古天皇15年(607)に聖徳太子により創建された聖徳宗の総本山。天智天皇9年(670)の火災後、8世紀初めまでに再建された金堂・五重塔を中心とする西院伽藍と、天平11年(739)頃に建てられた夢殿を中心とする東院伽藍からなります。法隆寺は建築・美術などあらゆる分野において、わが国を代表する文化財を今に伝えています。

【国宝】

四天王立像 多聞天

飛鳥時代・7世紀

奈良・法隆寺蔵

金堂の内陣四隅を守護する四天王像。厳しい眼差しを持ちながらも、動きの少ない静謐な姿や、うやうやしく天王像を背中に乗せる邪鬼の姿はきわめて独特である。



（部分）

太子の娘が奉納

【国宝】灌頂幡

飛鳥時代・7世紀 東京国立博物館蔵(法隆寺献納宝物)

金銅板に仏菩薩を透かし彫りした華麗な幡。本来織物製の多い幡の形状を忠実に再現し、高度な金工技術を示す。聖徳太子の娘・片岡女王による施入と考えられる。

日本最古の四天王像



迫真の感情描写！



【国宝】羅漢坐像(塔本塑像のうち)

奈良時代・和銅4年(711) 奈良・法隆寺蔵

五重塔に安置される塑像群のうち、釈迦の死を悼む羅漢の像。群像のなかでも真に迫る表現が見事で、写実性を追求した奈良時代の幕開けを飾る作品である。